

3分でわかる

みんなで
ワイワイ!

製造業&
建設業向け

現場力向上

ワークショップ

- 保全ラボのワークショップは工場の設備や工程を教材にし、楽しく学びながら、明日から活かせる知識の習得を目指しています。
- 現場力の向上には、ソフトスキルとしての現場のコミュニケーション力と、ハードスキルとしての機械や製造な対応力が求められます。
- 高い心理的安全性のある職場づくりと実践的な知識の習得を同時に行いたい製造業や建設業の皆様におすすめです。



みんなでワイワイワークショップを行うことで、
現場の問題を解決するチーム力を作りましょう！

今、現場で求められている**チーム力**を育てます。

チーム力を作るための**③**つのポイント

① 会社の帰属意識を養うためには、 色々な部署・役職・職能の人と交わることが大切です。

様々な部門や職能の人と交流することで、様々な視点や知識が共有されます。これにより、従業員は自分の仕事がどのように経営や他の部門と関連しているのが分かりやすくなります。また異なるバックグラウンドや専門知識を持つ人と議論することで、共通の目的や働く意味を再認識する機会になります。仲間で共通の共通の価値観に基づいて行動することで、統一感を得られます。



② 生きたコミュニケーションは、 仲間との問題解決の中で育まれます。

座学だけではわからない、「隣の人」と「私たちの職場」についてディスカッションしましょう。日ごろ関わりが少ない部門の人と議論することで、コミュニケーションスキルが向上し、ミスや悩みが減少します。相談できる仲間が増えると、スキルの相互補完が可能になります。これにより、各従業員は自らの得意分野で貢献するだけでなく、他のメンバーのスキルを学ぶ機会も得られます。



根拠 1

研修期間の長さや研修回数は、 離職率を低下させます！ ※

研修期間と回数が多いほど、社員は仕事に慣れ、会社に定着し、仕事のモチベーションが高まります。具体的には、仕事への理解やスキルの習得が進むことで、仕事のやりがいや会社への帰属意識が高まり、コミュニケーション能力やチームワーク力が向上します。この結果、社員は職場での人間関係が良好になり、定着しやすくなります。

根拠 2

教育訓練・能力開発のあり方は、 職業生活満足度を高めます！ ※

社内教育は、社員の成長と企業の成長に欠かせません。社内教育により、社員は新しいスキルや知識を身につけることができ、仕事の幅が広がり、仕事へのやりがいや達成感を向上させることができます。また、企業の競争力も高まります。ぜひ、貴社でも教育訓練や能力開発を積極的に活用しましょう。

③

研修のための研修ではなく、 ちゃんと業務に役立つから本気で取り組みます。

研修の目的は、学ぶだけでなく、その学んだ知識やスキルを実践で有効活用することです。当社の研修プログラムは、学習した内容を具体的な業務に応用することを重視しています。

研修プログラムでは、貴社の工場ラインや設備を利用して実際に体験が可能です。これにより、従業員は直接的で現実的な状況において学んだことを実践できるようになり、課題や達成目標に即したスキルの向上が期待できます。



安全ラボがおススメするワークショップ

ワークショップは、参加者が主体的に学び、個人やチームの成長につながる有効な教育方法です。知識やスキルを身につけやすく、新しい視点や発想を得たり、コミュニケーション力を高めることができます。現場力向上ワークショップでは、コミュニケーション力と機械や製造に関する対応力を高めることができます。

安全ラボは、心理的安全性のある職場づくりを大切に、安心して学べる環境を整えます。貴方の職場も、ワークショップで、現場力を向上させましょう！

※[文献]

労働政策研究・研修機構, 2016, 「若年者のキャリアと企業による雇用管理の現状」(2023年10月9日閲覧, <https://www.jil.go.jp/institute/siryu/2016/171.html>)
東北大学教育学部 岡村和礼, 「2018年度教育学実習報告書」(2023年10月9日閲覧, <file:///C:/Users/kiyoo/Downloads/%E5%B2%A1%E6%9D%91.pdf>)

現場力の向上に求められる2つのスキルがあります。

ソフトスキルとしての 現場のコミュニケーション力

工場では、多くの人が協力して作業を行うため、コミュニケーションは欠かせません。

よいコミュニケーションが取れている職場では、情報共有が進み、問題解決や改善活動が進みます。

その結果、チームワークが強化され、生産性や品質が向上します。



ハードスキルとしての 機械や製造な対応力

現場では、様々なトラブルや問題が発生します。高い現場対応力があると、現場の急な変化に迅速に対応することができます。

また、顧客のニーズや市場の変化に対応するために、生産計画や生産工程を変更することもあります。このような状況下では、迅速かつ確かな現場対応力が求められます。



なぜ、コミュニケーション力が必要なのか？

現場では、多くの人が協力して作業を行います。そのため、作業に関する情報や問題点などを共有することが重要です。

コミュニケーションが円滑に行われることで、情報が正確に伝わり、問題解決や改善活動が効率的に進み、生産性の向上につながります。また、職場の満足度が高まり、モチベーションの向上や離職率の低下も期待できます。

どうすれば、コミュニケーション力は伸ばせるのか？

工場でのコミュニケーション能力向上には、組織内、個人、信頼関係の3つの視点が重要です。組織内では、製品や設備に関する知識を共有し、問題解決能力を強化します。個人では、実際の状況で現場を学び、経験を積みます。

信頼関係を構築するためには、定期的なミーティングなどで目標を共有することが大切です。これらの能力を高めるためには、実際の設備を活用したワークショップが効果的です。

教育効果は、どのような観点で評価できますか？

教育効果の測定観点は、目的ごとに異なります。

そのため目的に適した効果の検証方法をお客様の課題や状況に応じた検討を致します。例えば、知識習得が目的の場合では知識評価テストを行います。心理的安全性が目的の場合では、終了直後の満足度評価や、一定時間経過後にフィードバックの収集などを行います。

なぜ、現場の対応力が必要なのか？

現場で対応する問題は、多岐にわたります。問題に対応し、仕事をスムーズに進めるためには、現場の対応力を高める知識やスキルを身につける必要があります。

働く人、一人ひとりの知識やスキルが高まると、生産性の向上や品質の安定、コスト削減などの様々なメリットが期待できます。その結果、現場の社員が自ら考えて行動できるようになり、多くの問題により柔軟で迅速な対応が可能になります。

どうすれば、現場の対応力を伸ばせるのか？

問題解決に必要な知識やスキルを身につけることで、素早く行動に移すことができます。設備の構造を理解し、現場で起こりえるリスクを洗い出すことで、論理的な視点で現象を把握できるようになります。これらの能力を高めるためには、現場の設備を利用して、実践的なワークショップが効果的です。

特殊な設備や内作設備でも、研修を実施できるのでしょうか？

対応できます。

生産活動の観点で特殊な設備でも、トラブル時の対処方法や設備情報の整理手順、設備の点検方法の考え方は同じです。そのため、特殊設備をテーマとしたワークショップも可能です。

様々なテーマ・課題に即した自由な組み合わせで設計できます。

様々なテーマ・課題に対応

自由な組み合わせでワークショップを設計できます。

対象者



新入社員

若手社員

キャリア採用社員

管理職

幹部候補管理職

シニア社員

など、

時期



入社時

配属・転属前

入社X年目教育

昇進・昇格前

など、

テーマ



技術研修

- ✓ 工場設備の構造
- ✓ 点検方法

生産管理

- ✓ 管理項目の設計

設備管理

- ✓ 設備保全の導入・運用
- ✓ 保全システムの導入・運用

ビジネス基礎

- ✓ PC基本教育
- ✓ ビジネスマナー

KIPマネジメント

- ✓ 管理項目の設計

など、

具体的な組み合わせ例

社内教育を何からはじめたらいいか、わからない方は、お気軽にご相談ください。

現場力向上ワークショップなら、簡単に組み合わせられます！

新入社員



配属前



ビジネス基礎

- ✓ PC基本教育
- ✓ ビジネスマナー

- 新入社員の配属前教育では、実践的な内容で、即戦力として活用できるスキルを付けることが大切です。
- ビジネス文章や電話対応などの基礎スキルをロールプレイングやグループワークを通して学びます。
- 新入社員同士の交流を深め会社への帰属意識を高めることで、離職率の低下や職場の定着が期待できます。

若手社員



入社X年目教育



技術研修

- ✓ 工場設備の構造
- ✓ 点検方法

- ワークショップは、若手社員同士の交流を深める絶好のチャンスです。同じ目標に向かって学び合うことで絆が深まり、モチベーションを高められます。
- 工場設備の構造や点検方法のワークショップでは、実際の設備の履歴やトラブル事例、過去からの改善点などを学びます。ワークショップの最後では、グループ発表を行います。このような学びを通して、工場設備の知識やスキルを身に付け、1人前の技術者に成長していきます。

幹部候補管理職



昇進・昇格前



設備管理

- ✓ 設備保全の導入・運用
- ✓ 保全システムの導入・運用

- リーダーとして活躍するためのスキルを育成する機会になります。
- 工場に必要なマネジメントの1つである設備のマネジメントを体系的に学びながら、人に教えるために情報を整理する方法を学びます。
- 工場の将来像について考えることで、自らが会社や社会に対してどのように貢献していくかを検討します。

開催実績

- ・ 建設業/新入社員 現場の施工管理要領作成のワークショップ
- ・ 教育機関/学生 工場のエコシステム形成のワークショップ
- ・ 製造業/技術者 設備保全の導入・運用方法の講義

社内教育の準備にかかっている時間を減らしたい・・・

そんな方には、“現場力向上ワークショップ”がおススメです！

保全ラボに丸投げ！



プログラム設計



資料の準備



当日の進行



効果測定

- ・ 様々なテーマ・課題に即した組み合わせで、ワークショップを設計できます。
- ・ めんどくさい教育資料の準備やスケジュール作成を保全ラボに丸投げできます。

活用事例 A 社：若手の職場定着を促したい

□課題感

離職率が高く、若手が職場に定着がしない。

□テーマ

現場のトラブルや過去の対応策の共有を通じて心理的安全性を高めること

□研修の目的

- 自分の仕事がどのように経営や他の部門と関連しているかを理解すること。
- 自力解決だけでなく、チームの力を借りることを学び、職場全体としての問題解決能力を高めること



受講者の感想



他の配置のメンバーと連携しながら学ぶことができ、**新しい友達もできました。**
設備ごとのリスク評価の実践が、とても楽しかったです。
(10代、製造部)



今までは、現場の人たちと会話をする機会が少なかったのですが今回の研修により、製造現場の人と話すことができ、仕事内容を知ることができました。
また**製造現場の安全や環境への取り組みを知ることができ、大変満足しています。**
(30代、営業部)



設備を知ることで、製品調達の判断基準で新たな気づきがありました。実務でも購入意思決定に活かせると感じています。
日ごろ話すことのない**他部署の人とディスカッションをすることができ、楽しくワークショップを進めることができました。**
(20代、購買部)

周囲の感想



現場だと同世代との接点が少ないが、研修で社内の知り合いができたことが嬉しかったようです。
昔のように**現場の経験だけではない、時代に適した研修**なのだろうと思います。
(50代、製造部)



ワークショップに参加した従業員たちは、実際の状況でのスキルを身につけることができ、非常に成長したようです。
チームで協力することの重要性を体感できたと思いますので、今後が楽しみです。
(60代、取締役)



今回のイベントは、従業員のモチベーションを高め、学習意欲を刺激したと思います。
社内研修を増やすことは、**離職率の低下や職場満足度の向上につながる**こともあり、今後も同様のトレーニングを計画していきます。(30代、企画部)

活用事例 B 社：スキルのバラツキを改善したい

□課題感

ベテランが抜けた後、転職者を増やした結果、スキルセットにばらつきがでてしまった。

□テーマ

実機の設備を教材に仕組みを学び、生産の安定化を図る

□研修の目的

- 自社の特殊設備の理解度を高め、トラブルが発生しないようにすること
- トラブル発生時の対応時間を短くすること



受講者の感想



トラブルシューティングの実践が、非常に参考になりました。
たまたま先日同様のトラブルが発生したのですが、**今までよりも最適な対応ができました。**
これからは、もっと生産の安定し、仕事が楽になると思いました。
(20代、製造部)



生産ラインの詳細や設備構造の理解が高まったと実感しています。
これからも、このような研修を継続して欲しいと考えています。
(30代、設備管理部)



他の部署との連携が品質管理プロセスの改善につながると思っています。**品質管理のポイントを他部署の人と共有することができ、とてもよかったです。**
品質管理の水準が高まることで、残業時間の削減が進むと嬉しいです。(20代、品質保証部)

周囲の感想



研修後に設備の構造だけでなく、安全な取り扱いのノウハウを習得していました。**実務にちゃんと役立てることに驚きました。**
次回、同様の研修があったら是非、参加してみたいと思いました。
(30代、製造部)



実際の設備を通して学んだことは、従業員の自己信頼心にもプラスの影響を与えますと思います。
また、現場とのつながりは実務上でも役に立つ機会があると思います。皆さんのパフォーマンス向上に期待しています。
(50代、総務部)



従業員のコミュニケーションを強化し、スキルを磨くために、設備を使ったワークショップは非常に効果的な方法でした。
今後も継続的にワークショップを実施したいため、来年も依頼しようと考えています。
(30代、人事部)

ワークショップの企画から契約、実施までの流れ

凡例

無料 有料

企画段階でもお気軽にご相談ください。単発の依頼から、年間スケジュールの作成まで、ご対応致します。

目的に応じて最適な内容を提案します。

当日の詳細スケジュールを詰めていきます。



1 お問い合わせ



お問い合わせ後、弊社担当よりご連絡いたします。

2 事前のお打ち合わせ



現状の課題感、達成目標や想定期間などをお聞かせください。

3 ご提案



ワークショップの内容やスケジュール案をご提出します。

4 ワークショップ/研修の内容決定/ご契約



内容にご納得いただいた後、正式に契約を締結致します。

5 研修当日

ワークショップ/研修の実施



研修実施貴社工場に訪問し、ワークショップを開催いたします

6

開催後

終了後ヒアリングもしくはアンケート



弊社の事例紹介などにご協力いただける場合、次回ご利用いただけるクーポンを発行致します。

「何が課題なのか？ 目的を何にするのか？」を一緒に考えます。
効果検証の方法も一緒に考えます。

1回のワークショップの内容だけでなく、長期的な人材育成のロードマップの検討も一緒にします。
※別途、料金がかかる場合がございます。



研修実施



当日のプログラム例

| 当日のスケジュール | | 時間 | 内容 |
|-----------|------------|-------------|------------------|
| STEP 1 | オープニング | 9:00-9:15 | オリエンテーション |
| STEP 2 | 設備工事の種類 | 9:15-10:00 | 設備の機械構造や特徴の説明 |
| STEP 3 | 維持・保全・改修工事 | 10:00-11:00 | 対象設備の条件・生産条件の整理 |
| STEP 4 | 質疑応答 | 11:00-12:00 | 設備故障時の影響度、損失額の把握 |
| 昼休み | | | |
| STEP 5 | 質疑応答 | 13:00-14:30 | 設備部位のごとのリスク評価 |
| STEP 6 | 質疑応答 | 14:30-17:00 | 保全計画の作成 |

※プログラムは一例です。

◆ 保全ラボにワークショップを依頼するメリット

楽しい！

保全ラボは、高い心理的安全性を大切にしており、参加者が安心して学び、意見を交換できる環境を整えます。

安い！

1回35万円～（税別、交通費・宿泊費別）で依頼できます。テーマ選定やスケジュール案もお任せできるため、準備や運用にかかるコストも抑えられます。

専門的な知識

設備や改善の専門知識を持つ講師が、最適な学習環境を提供し、効果的なワークショップを実施します。

◆ 現場力向上ワークショップで期待できること

生産の安定

社員一人ひとりが、設備維持管理の知識を取得します。設備の点検やトラブル対応が行えるようになり、生産の安定が期待できます。

問題解決能力の向上

現場で使用している設備を対象とし、トラブルについて議論します。課題解決技法を学ぶことで、現場で発生する変化に対する対応力を高めます。

社員の定着

社員同士の円滑なコミュニケーションや教育訓練による能力開発により、職場生活の満足度を高めます。

現場力の向上には、ソフトスキルとしての現場のコミュニケーション力とハードスキルとしての機械や製造な対応力が求められます。

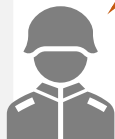
得られる学びのイメージ

効果1

知る・深まる



設備の内部構造が理解できたぞ。
これで、設備に負荷をかけずに、
生産活動を行うことができそうだ。



効果3

記録する・伝える



ワークショップで作成した資料が、
そのまま設備の点検チェックシート
として使えました。
助かったなあ〜。



効果2

教え合う



お互いの得意なことがわかったため、
今まで以上に現場で助け合
えると思います。



効果4

効果がわかる



ワークショップの後のアンケートで、教育の
満足度を定量化することができました。
今後の人材育成計画に、反映できて、
教育効率を高められそうだ。



価格目安

ワークショップ 350,000円~/回
(税込: 385,000円、交通費別)

座学研修、講演 40,000円~/時間
(税込: 44,000円/時間、交通費別)

※メールでの内容確認およびオンラインでの打ち合わせを無料にて行います。
※受講者様の人数、時間に応じてお見積もりいたします。

ご相談ください!

ワークショップ以外の座学研修や各種講演にも対応致します。



工場には、様々な課題があります。
生産の安定化やトラブルの対応力だけでなく、設備更新やIT・DX化のため
に、設備の教育が必要です。
また幅広い産業の領域に対応致しますので、お気軽にご相談ください。

保全ラボのプロジェクト紹介

導入・運用

セツカン -設備管理運用ツール-

ムリなくムダなく設備保全を実装したい
工場様にオススメです

行動履歴の記録を付けるだけで、工場に最適な
目標値や保全プランを明確にできるサービスです。

標準プラン

追加人員ゼロで工場に合わせた
設備保全を導入します。

69,800円/月 ※1
(税込み：76,780円/月)

- ・初月に工場訪問、行動履歴の記入項目を設計します。
- ・履歴管理シートを提供します。
- ・設備保全目標の設計します。
- ・月次で、保全活動へのフィードバックを行います。
- ・6ヶ月毎に履歴分析を行い保全活動のアクションプランを提示します。

本格導入プラン

設備管理のプロが工場に最適な
保全計画を策定します。

300,000円~円/月
(税込み：330,000円/月)

- ・工場ごとに設備管理のあるべき姿を調査し、最速であるべき姿への到達を目指すコースです。
- ・工場の診断、あるべきの推定、ロードマップの作成から、設備保全資料の代行/支援まで行います。

いずれのプランも初期費用は0円。いつでも解約できます。

- ・料金お支払いは前払い制です。
- ・料金の支払い手段は原則、銀行振り込みとし、毎月15日にメールで送付される請求書に従って、月末までに口座振込をお願いします。
- ・初月の料金は、当月分と翌月分、翌々月分をまとめて、翌月15日にメールで請求書を送付します。
- ・料金の支払い方法が年払いの場合は、初月の日割り分と11ヶ月分をまとめて、翌月15日にメールで請求書を送付します。
- ・必要に応じてNDAの締結を行います。

※1：初月訪問時は、別途交通費（実費）を請求させていただきます。

相談

バーチャル保全パーソン

設備周りのセカンドオピニオンが欲しい
工場様にオススメです

設備保全の経験者や専門家を抱えるよりも、
手軽に専門知見を自社内に取り入れることができます。

| プラン | スタンダード | プレミア |
|-----------|---|---|
| 料金 | 39,800円/月 (税込み：43,780円/月) | 136,000円/月 (税込み：149,600円/月) |
| 回答 納期 | 4営業日以内 | 2営業日以内 |
| 件数 | 10件/月 (相談フォーム起票数) | 15件/月 (相談フォーム起票数) |
| 回答の 特徴 | ・生産設備に関する一般的な質問 ・各種相談(設備修繕予算目安、設備更新時期など) | ・貴工場の生産工程、設備情報に基づいた個別に回答 ・複数の保全パーソンで対応 |

スポット
相談

一度だけの相談なら、こちらをご利用ください

- 相談方法 **30,000円~/45分**
・Web(zoomなど) (税込み：33,000円~/)

- <相談内容の例>
- ・設備保全の目標管理・項目の設計のご相談
- ・保全履歴の記録表の作成や分析方法のご相談
- ・保全システムに入力する記録項目やマスター設計のご相談
- ・効果的なIT・DX化の推進やAI活用のご相談

知る・学ぶ

現場力向上ワークショップ

工場の設備の構造をわかりやすく解説。トラブル対応
にすぐに役立つ知識の習得を目的としたワークショップを
実施します。

特殊設備、内作設備もお気軽にご相談ください。
※その他、新入社員や若手社員を対象とした勉強会や研修も承ります。



貴社工場の設備1台~
実施します。



ワークショップ1回 350,000円~
(税込：385,000、交通費別)

1日工場診断

工場に訪問し、現場にある設備とその保全状況をお伺いし
取り組むべき課題を明確にします。操業や作業を止めたり、
変更する必要はありません。

- 工場の状況や要望に合わせて4つのコースを用意しています。
A. 保全水準把握コース B. 設備コスト削減コース
C. 保全業務量評価コース D. 保全戦略コース

診断料金 200,000円~
(税込：220,000、交通費別)

下記の要望にもお応えしております。

- ・設備メーカー様の保全資料の作成支援
- ・施工会社様の設備工事チェックシート、マニュアルの整備
- ・保全システム会社様の工場導入支援
- ・工場のIT、DX化支援
- ・大学や学校法人での講義
- ・自治体や地方団体でのイベント
- ・遊休資産（工場や設備）の活用
- ・工場の事業継承、M&A時の生産設備の再点検
- ・設備保全の付帯サービスの開発支援

保全ラボは、みんなの保全パーソンになる



保全ラボ が解決したい3つの課題



地域・地球環境

- 環境への配慮不足
- 汚染物質の漏洩や産業廃棄物の排出



工場

- 低い保全水準による機会損失の発生
- IT・DX化の遅れ



働き手

- 時間外労働
- 設備トラブルによる呼び出し対応



メッセージ

私たちは、工場の製造部門が生産活動に専念できる環境を作ることを目指しています。
そのための手段として、多くの中小工場で適正に実施されていない設備維持管理の水準を高めることが有効であると考えています
設備保全は工場資産の有効活用であり、利益創出に貢献するだけでなく環境負荷低減にも繋がります。

■ 会社概要

| | | | |
|------|---------------------------|-----|-------|
| 会社名 | 株式会社保全ラボ | | |
| 事業内容 | 設備保全の企画・計画設計、トラブル原因調査 | | |
| 所在地 | 東京都品川区西五反田2-9-7 ドルミ五反田407 | | |
| 設立 | 2022年1月 | 資本金 | 202万円 |